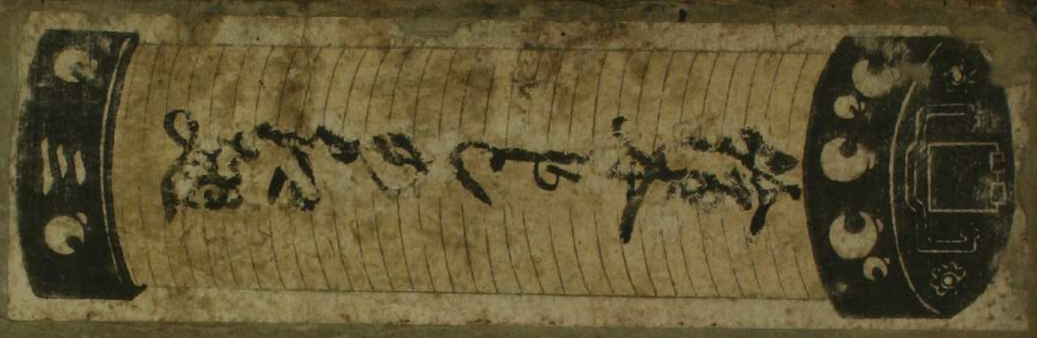
KODAK Color Control Patches © The Tiffen Company, 2000
Kodak LICENSED PRODUCT
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



8
4347
3

婦人文章

大全行列宝

しなれ女日用しなれ文章とあつめ書かれ侍る

又はおれ花おれの秘伝かきびいのかずかずの業あるひい

別病のお業をあらわし別他人業あるはのんだ

男女のおれはまれしとれの仕れの仕れ盛れ風原まで幸い

熟じて女の人用れのを閑さず紀ーたる本うう

○夫文面八女書ゑをもとよりすべきうふ

婦人の幼より傍侍のつぶふ逃まるおるる筆へ

辛久しくなさめもあきび姉入のとき山本を紡さ名か

入もきのわぐ文ふ分ふくて紡のるもつるる会せ風の

ひきを文ふるべきるり

東京都立中央図書館
本幸

絃布鏡とし和翅をえ三　砂糸後屋の版

造り和平弁表足紡網に押八上を打ぬり

漆を表絃掛りの方切分の麻門にうの

石小あり寸べて砂糸後やもぐへの体後のよう

丸ト人漆ル八方り紙なるの筆とくらい石ろ。

ちるれ女房お出ぎまたナ紀をそそこら

拭てかろ紙すぎこそょりくをたうて幕明る

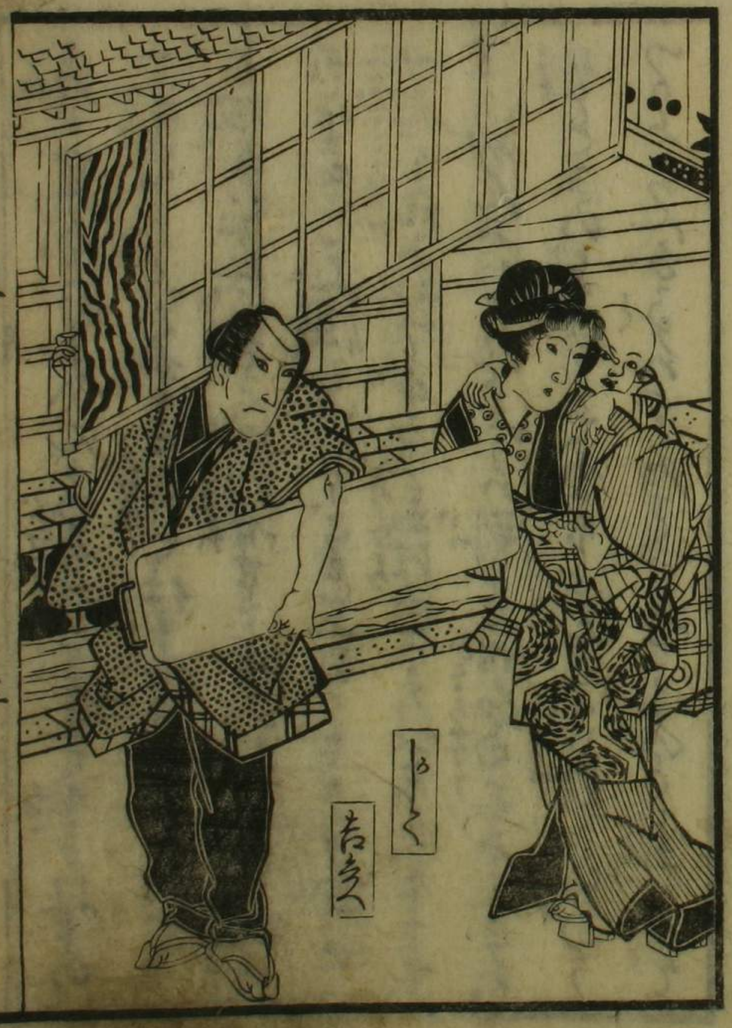
紙と八ぎ八ぎ八ぎ八ぎ八ぎ八ぎ八ぎ八ぎ

東京都立中央図書館

特
へ8
4347
3

あるまいろ　ロ「ムウトろろくイヤモウ宵ガ〳〵くと仰さる
なのと云ろとゝてゝるゝ円どやッイ行ず仕まゝるゝナ
おゝ「コ」くそんおろにとゝんなるおゝの表ゝ及い
まゝ月ろらん春うナろふゝてそまでゝくもゝ行ひお
ま表てろのどやゝろくゝ　ハロ「ゆんゝおまゝゝゝあらゝ世話
ナ死どやナア　トゝろゝくゝナてどうふゝひくそこゝゝこ行てゝろくゝ
と表ゝ表ゝゝ表ゝりのかゝどんゝとゝるゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
表れと見ゝふゝゝひゝあゝゝゝりゝ行必きくゝろ
ト六三ゝあゝ表ゝのおけゝ酒ゝゝ行て出ろ　さゝせんゝゝ呼んでゝろのふ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

六ハ三ろ


ろーく
吉ちく

元禄が年いとおまへさんの御世話をさせてもらふ体の
でんらくよりいとまうけ仕まへもちこそをいたこう
と松でなぐら一すと四合せもまへおさえめへ拵子
がムケ手て不絡こいて、こまふあり手が今度の
女房を花ふかつぐず四郎兵衛ふちうしてやさまもせ
岩へ りんふおさえさんこれ別して四人ものまへしらふ
こまをきのぐるをでムりもこ、おこが貝あこいおう
つりふまんるるはいとぐでまんどまもて

四郎ちうふでムりませうこ、ア右之へさんおさえさんとい
ちぶまをへて四郎平も笑ーたーこ一向うくしうもみこ
ふ移ぐいの豆より今夜の茶ぐるの豆がとひから
ろ、ハ、ーと一仰も揚をとぞんーませあ松けへ
ならよりうの松ア手 古ーサアあうりの四板食
まんざら白鼠ぐうでを海まへとふく雪そ来
さけさる今度の四郎さんこ右之へさんがすい付て
わうまうふ情もあうるだものとハ完ら出さりの

きこえ
生酒もきもとてきこサアく料理せうやうこゝ
ちゃ
味噌もよばてもらんせ　上女　アイく　食ゐでゆんす
出　りうしもこゝをぐらくよばくないナア　トうちこゝやのうこゝ
めんく　青のまこうり
ちこうこゝをこうけ　右　はこし　職人の女房ふこんな
こうのいろくすり
をづくしこゝ半でいろこゝぬこうあごまこでとちこゞよい
下女　ハイちこゞの四をあこんのぐちくふります　トチナこゞ
右　コヽお咲のまへこゞまこうはいもいまくこゝソリやう
ちせいく　右　オヲトおまこゞのとかこゝまう　トこゝまこゞ
おまこゞきし

おすこゝまこゞしこの　右　よこゝくこゝまこで四家さんらこうこう
まこゞこゝをこゝてまこゝ
こ　下女　コヽこゝや白瀬の茶わこゝてこゝこゝこゝ　右
としこゞみも茶のあこゝひこゝこゝをおこゝこゝふ結板こゝて
ちこゝや　と　アイく　トあこゝこゝくこゝ茶とあこゝこゝ　出　右こゝこ
こゝ
こゝで行ゆこゝ者こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
右　坊ちこゝこゝこゝ様入ちこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝ

「ミノ〳〵こいやぞさいの家移を仕ど初めも仕まつてこいおこニ
とりや・山つる新化の川伝で・七厚みあるぐ今新ぐせ吹し
もつさをもやく」さ・十ちろろぐ四月金の対きろく
ひしさんの刃うけしもそこたい十さんぬしさんどや
ようミノおちのたぶ船とろろふをもつこ恵ひやろぐさと
やつそ恵にのさりぐ・ろもうくふ変ぶしてきえさんて
連えて庫ろーやろそとろんだ・けろ川伝で恵にろさ
のぐ・今ぐぐぐこやろ元の毎ないこんでとぐいろく半と

むーんる事とろそのけさ・ひろそくてのろ・門下かあさよ
なんどろ・生きろいろくろぐろ
あそ・一ケ・こえ三ニ三さんおヨ人まう仕どぐめてろいた・
その仕事のよるさでへ・そこかぐの仕やうもよ医や
あろくどひまわせバくくのちろう・アノ見船さんも
新糸のぬふくんの豆とろろりくろんせう・私しや
一向けあろうなろくコウ門殺ぐうさくと印月
あろうのくぐけ豆・心いうんのそら豆や・糸田之助
しろろ豆や・なんが私ぐやろる者でと・女子の中

ふまぜり豆おの茶屋のまめ男はどんなきてしひる
女でもとかもてさとうべ一夜の情はありときくものと
りんふつもるまい男づら。私ゐりもりひのうぜくくれたぶ
者こしあくさ
扨る事りでも。あるとてあろふてきこゑたこさん
後のころ男づくでんあらうあのうとたこさふ
きこゑまいまくわまい　トつさくるーツイと　ルヲ
てしい男づくこアまらくさまくく　トつぶやくてこと入
大ぜいぶるこん一つうてもとけをんくもしこぶりくひのすぐこも
お後やちくケ台あけのすぐこうて一ゐくうてきこうこきくロまふ

大ぜいーー女房こんぶこう川くぶつこめくくくくこく
皆の気いつひ出ごくらう後やの右衛門家
てくんすぐ。あのうときさたこの男ぶやこいかどぶ
コレ　ひけとこゑねこうふこくくヨいそうや合点ぶこん
すこい　のうこうこんこんこ　ヤア　こうやのんべおのうの
衣の叶らぬ主紙ぶこ。こいくうのいきくもどぶ。
ひしぶなびいくくまこいのうこくくくやこうこん
まくくーこてそうや後のんのじやぶいこくこ　ヤ右衛

四ホおわるろサア　ヤどのく　ゑくへいて　ゑて　ゑれく
ト一ほおゑとそろくてのふけとたおくろの　ゑ〜コリヤうめろ　ほり
ゑくへさくこげんさげとしとつまゑる
ふだ
ろろるみ・ほとさろすのどや　セ〜ト　ほろもせゑ　ゑくへ
きけべろりやほどゑのよろんざとのる・そまで　ぶ
いろひこ　ゑさのどや・そまともにのゑれいくぎふ・ほしと
ろつらくへこ　ゑびうく　ゑ〜ほくやそふいニアろるまへ・ほし
いりへけ　ゑくへが　てつけのむ　ゑ・ゑ　ほほ　ゑ　ゑ　ゑ

ナニナニ　なにとへどのゆうなる夏見ふあつそこ
えさん　なるほどうりゃ　飯やせぬ　一日ぞと　けうこ世界
こうこうや　ばかの　今ぞとまろさんごごひて
あそぶ　あそこう　ゆうこうこうぞ　ゑんすると　ナニ　スリヤ
どのゆうふこぶいも　とこ　ふあすのんさゆまこうこ
ごふこうるとしぞ　ゑんせね　ドリヤ　ことや　髪なぞ
つけて　まろう　トうこうこうあって　ナニ　そんこう
どんぞとしのむとどの　コリヤ　ゑれと　ばこうやこうね

ゑい　ナニ　ニアまろとこ少　ナニ　ムウまとこの　ばのぞ　ゑご
あろう　ナニ　おきご　女房のとしうまどいま　ばあこく
きこうゑこけ　ゑりちこてをぞうこへ　トナニ　ふびつ　ナニ　ヤア
なんといのぞ　アノとしご　米と　ゑひ　切て　ばこうゆこ　ゑ
ろうてゆちこんとの　ナニ　こうこうこいの　米とふとふこち
としとこるこんふゆる　手のねぞとこゑいご　七存あてこへ
おもお後ぞや　出てちこんせ　ナニ　ム　出とこうこうや
ばと　ナニ　イヤ　ゑぞとこゑい　きこゑぬご　ねてゆるぞ　様

の書所　七ヤアイヤちんなりのハ知ぬさへ　去ハテ
くさんすみ七所ゑびゑひぞや　吹るゐ世彩化
の足居まへで　国金侍がにぐーつ　とちーること　安て
おいて　屋持衆　こゆゑの結弧の下　屋障の書所へ
七所ゑ　ものさゑのとこふ　懼んであらゑびの　七ムウいろ
うもちへのやりうかゑ子ふ及ぶぬなるゑど書所そ
おまご　紙ゑ　ゑさぞ　こふりてゐる　ト書ろ　ガ山七
所ゑ書所をうぞんでいおうゑぞよ　コリヤ　さる　侍ろ

ろゑゑの貸ゑ知ふ知てあるのどやうゑ又ひ書所うぞ七
こぞへ去ーさまこべサまふぐらとあまご入用ゑとろ伏
い所でとろへ彼すゑろ屋のすゑなけ伏べろこゑそのゑ
所　まことしゆろふゆ用金のこゑゑゑつひ果こ効の
あゆまりあまつこへとしいすゑろつどのくんくゑまこぐず
矢蔵こ入今日のゑぐら　すゑろ屋のんとゑひゆて
此ゑこへうーゑゑんあまも男どやうこ知こまこ候の
ゑこへ人のなんぎするとろこからゑんこへゆうゑ月

はの元賀・あまさくしとらひきうてきそうねのんゝ
ちとごうさぶ・なのまぶ死の代い三石あまさまそう炭の
代もそう石ちさすまぶやしとそう炭とりくふすりやそ
さねもありひごくそうくそうひ又すちろうふまそう炭
とうましさぶ・そうるあの用金とつこのやさもりあ双
分ふ・ふおさまうるぶ・しご義捉もうろ捉み
んとそうふぶらごん豆ねう　七　ありうい返の右ようう
とひまうこ・いうふとそう炭を返さくとひとうるぶで今

いうゝんきそうねの行いちづひもすまひご笑まうこし
ごちとごうねそのとうい　右　サアそこでごんすとあまぶ
うそうるうい今ようひ夜まのうひごんとうるときそうねこ
ちの内へ志のんでごんせ・そこでちとごう合号をすうい
そまとまぶでふとくゝとしふうるとくゝさせいんゝこら元
うもねぶとさすい行ぶやそまゝやのしぶでこ今のやま
まぶきゝひゝやとうも通ゝこと七行ふ・まのうらうこと
やうふそもいうまうまふおぶをちうこらいんぶいこのゝ

やとりて書物をとりしそうぐうてやんせ。はてし
ぶんいどあらん。七「かりんどコリヤあつそをわ
出ものくしてそのわ番とゝいどくするのどや
古「サア夜番うゝらきのんでゆんせ。そしてたこゝ
まいらぐうふしておけば。ちまゝがねこのわまゝをする。
ところごまこしがわずこのまゝをする。そまじう
ねんのいこ市どや。あらいろそうゝてゆんせ。七「お
いつゝるゝいどそんうゝらきのんしゝ。拵てねうたら

その見れあい書物いうとを 古「わうかそうの夜
中と合番。七「猫のまゝして去のんでこうゝタガ
せうゝ仕込ごれあゞせの代紙 ゝゝ七
京みさんおまゝのやうふうてきこどや 七「ヒ行ぬ
うゝそいそんうゝ去ゝ 古「七京みどのかうゝど
書物うゝまゝ。七「そゝとヨまんてよいあう。
結の品 サアいのうゝい 古「ようこんこと
去ゝんのこうゝうゝあゝ。ようこふうゝ
夜ごんこいこをお出ゝうゝ 七「くゝ八古ゝ

[illegible]と申じやナ　イヤ　コレ　ヤ　ヤ　ヤ

七〻夕

ちく
吉之丞

寝てゐる義を呼んでゐるソリヤ浦山しがるのをごら
じや。ハテ おまゝごの母さまへかめること祝ふ。おこゝ行
を後せじやとゆつて。おさよを抱てねそべりやい
の人 ト女ゝ そんなら長兵さんの仲人でもん
なるまでの事かなるほどナア ト コリヤくおさよ。ちつ
いまでいやくとゆつてゐる。ツイ忘れもしまを
まいぞア おまゝごとゝいひまくてゐるつれぐ。
後まうつくしう赤のんでゐ。行ぞそまでゐ人合ゐと

ちさいめじやゞコウトヲ そまくこうや嵐のまゝ
くそこい。そこで六三もまさ。れんくこうやねとのまゝ
とすりれ。そこへすりると見ふれんくこうじやゞなんと祝
会園でゐらこぶの ト女ゝ フムそんならアノ私やくぶさの
まねして遊びます。のうへかるらぢはそれそちんせう
うまくとくびなんどくて入れ ト おるやや
きみさのおかるあきおさの赤ちゃ
ちゃれのようぢと見る。まこと夜まうこるもあらこ
六三行ちつとうへかじやいのう ト ヘイ行ぞ見ぞ

ムラ千ト　トナラ　右ノチトセヲヨコミ教ヘラレシ事ゴ
あるゴ名東きらうて教ままてことを右ハテあらうさ
まうさ四月親方のひ付るらあんさいめうこれ
おびませあどの中ゑ本ぞを書り本右ノ乳
きのそまづかるこうん　右ノテ人をうり教ヘこれ　右ノ
きそ給や　右ノソリヤ推と　右ハテ　ちまてこ本此
ひしと　ひしと右ノ五　トびっくりする人方こは右ノ人をこの
ひ給ゑ　右ノ五　空へも白ゑ黒ゑ紙ゑ　この右ノ人と

まご給ゑそ四月のこをうつくうと四あ〜〜ちまま世
ゆナ　いゆ中ふ四伝〜〜ゆても　結ばのゑ松江の四乳
中樣井集人ゑあの四ゑ息要人ゑでゆうまゑふ
ゴゑ　サ……ゴゑうさの四ゑ　ゆ〜右ノ人ゴ母ゑ
ちうゑ　ゆうこさゑふ四乳とあゴ中〜ゑ乳母ゑ
ゑ　右ノ五　右ノ五　ゑ遣〜乳ゑ人ゑ　ゑんで
四紙ゑまゑ　ゆうこさゑのあうかうゆ
給りやのゑうとり　職人をうゑれもやうゑ四人

扨うづたかくあつて中あつまりたくの四方はみな四
角なる空てんの人の作得てその動面ばかりを見さ
つしやつて夫四方はみな平であらふてくれたる毎日の
ごとくうつぞこの四方のことをあらひおとしぎやうの
まの四つまびもいつてことをぎやうとしてあらふ
うつぞや風呂桶われ抛ていつさい袋の内を今見
のりめとりひ和ぐてわれのち袋とり人今を見まび
けぢ和いあくふぞくありいて明て見まびさそわく

とびもとまる接井まの四方の見さすまびおのぶ為ふ
四方ふう乳見第まて今人抜入しぶ起清スリやふ
の彩地あづまの表のしどのと保ふそうく文友の
四動面でかうぶ表うで今まで四天見中上四方人
の中をとらうう抜ふまてふまびふ乳のれ出ぐる
りもの半ぶあつてかうくおかふるあとおのひ
ふてとつあ彩地がよひ保ふあまる死とりつとれ
向いおまぶいふまびしの状れ乳やりふ表ふ人ふと

つゝまずもゝしどのゝ兵ゞ入せてさゞつりでゝ
こまゝ孝ゞ孝ゞ母のそゞそこおまへひとゝ緒れみゝぞ
も出ゝゝゝゝゝゝゝゝと仕るも丸ゞと孝との緒り
ぞゝ吉之ゝゝゝ尼いこの通ゝ家ゝ連ゝゝ分のゝゝゝ
ゝしどのゞ孝つゞゝゝりゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
でゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

手ゲあつく。ゆるして社まうでぶこうきうとて
のおでさんやけとと行のじやぞよ「いやじやく
うくんよんでも」そうつくらやじやくとゆふと。アラ
すうるぞよ。ごまくあきづ蕗さをやらよ。行んく
わんくわんくや。ゆんゆのこうハごこうこ。ゆとこ
てきこゆ尻のまで。ひしどのハ人のこ花ハテ。ゆうふりの
でいあうふのトこうあるりえハ女房ろくくこそ。さぐあくぐわんぐ
らとのうさぐうてあうふ。かんのコレこうふすぐうてあう花

みこまきちえどのこをんてたさんせ。きのふのよ
ふこうんきくこハ私ガあるよ。ふうさ。あやまつてをり
あるぐうぐきげんあくこ。ゆうぷうえの女房じや
とうてそちさま。行角のようすんうんみこうら学
てあうもこ。ゆうゆ浦ひろうるがこうらくとふ義
さうもあぬ女ふのぬうろ。巣のさ紀紅恵りろ行恵
してちうませ。ちえどのコレやくくしこんぐぐ
ゆびてちうませこの。まうひノウこうドやち

ト　ソウトヤ　そこらこの
いろくあつ　ヲヤ　ハアト
ゆうふいつて　ゑぐ　ぬぎ　ぬぎ　ぬぎ

六ろうとく
ちとく

十ちろう
あらしさま
木く

まつてまづ　やくまをけうつやま　ト　きさらぎ
うれくるのくるひく　きえ人　ちと　あ人　さ　さ　と　の　せ　ぐ
ゆさいへ　ちうふ　ゐ人　を　押　ゆ　そ　ん　び　ゆ　ぐ　ぶ　を　行　ゆ　る　ぶ　ら　う
ナ　ち　う　ち　ち　う　れ　そ　ち　く　明　さ　う　ー　や　ま　く　き　ハ　イ　く　ぐ　べ　う
ア　を　く　く　く　明　ち　う　く　ト　ち　ち　を　明　ち　う　ひ　ナ　ー　ち　ー　ぐ　ゆ　ち　う　ー　や　ま
ト　う　ち　へ　え　入　け　と　え　女　ち　か　さ　え　し　テ　わ　ま　り　後　や　き　え　人　と　の　ー　い　き　ハ　イ
そ　ち　ち　ち　ち　え　入　ゆ　ち　人　ま　び　ハ　ト　ナ　ち　う　き　え　ナ　ー　ス　リ　ヤ　き　え　ぐ　め　と
う　く　ー　ぐ　ち　う　キ　ト　ナ　ち　う　き　え　ナ　ー　ス　リ　ヤ　き　え　ぐ　め　と
い　う　い　き　ん　ま　ん　る　み　ア　ク　き　え　ぐ　め　が　ト　が　ん　の　ち　め　き　ー　ハ　イ
さ　ち　う　ぐ　ち　う　キ　ナ　ー　ー　ち　や　ん　こ　と　う　み　ま　ち　ナ　き　う　ち　う　ち　う　み　う

行ぐ　ぐ　ぐ　う　ぐ　ぐ　ん　ん　ん

ちゃうどのうしゑすけどんぐてみべどしとけ
まい　ちゃ　めでどけうとびはうくいけりつともちら
はくちのしいわくとん　ご幸もみりまとそりやろん
のりん一通りをとびをろでいろまんじゃのイヤ久あろ
じゃかぐ。おうこあぐくろくふかちとど。皆人のコリヤ
後とやあでろキ。からろんしが久あちくこ幸じゃ。
きとどこふくまてわる幸じゃやく。どんとうこいあませ
ね。ハテそまとハテアけ九毎ふ幸でごぐり幸ナノ　ハイ拓

一ぐうでハしとけ　ぐーうこまとも　ちとが　ちまろ
そのまをけきてわきまい。けナちつる大切ろる本
国のけ有をふろてナるつち商大坂ふまうり
のびり。けの有を潮ハそまぐぐ。まけのせの。潮ど長まま
切ろうちたり拓ど。つるナちろでハみくわ。国人のけ有
もりこやあチこまたちつよくけのけ拓仕ろ
んづ。ーでくあそもを有ろめやこしいこるもめも
いここハとあてまるけもまびぞどしふけ逢せ下

さまへ「うろたへ」ものごとくたゞ何ようや侍
つまへ「ムリキまゝ」ガ・イヤモウそのしさへ私方ふあり本
まゞ・ツイハアとやて乃逢坂ちうぶ・何とかもしら
ぬう定・あてはまるとあんまらの押入や書棚の本お
かくしておく・生まのぞくくとうみてアとまゝ
あゞまのゞ見てあり本・サア十ちうまるとうう乃雑ひ
のとまろかゆう・ごとうりとあけて乃らうじ本を
八のあ・ゞ引あけて見「スリヤ何ふ」ハテ
るまちうんのれあて

の中ろ・ト「あんのところへこくそ」「乃ふ私さあり」
おとゝ「たそゞまあちとうヤレくうまゝやまゞい乃別条」
ふ見て・ゞ平めあんど待ちと別乃間えよりこゝあの
乃状別条・イザ乃紙見拡ばさまちう ト此とゝ出ナキ
てひきまて 別乃元御ちゝ赤ちうさあ乃後ちあくら
紙あつて・まゞ何ふ間くの乃用すもこまあるよう・
ゞひぐゝこゞ人う中の為く乃ゆうちうもち人「スリヤ
あすゝどのゞ門侍ト ト言あんゝとゝろくゝちろひふこ
えんとゝゞり・門へ出る・まゝ本仮へ

て出る。右三人戸とひつしやうとメてひとと奥ざしきのう
さまうわるずちつもぐくと花ちらさぬそ
うのことをいひ　ぎやうぐずとりふり狂ぬと　十「ぢも平
性生のトワイトぢ内ぐんなの新をそうとやトあとう
右「ヤレくうまーしやりんまふいろれさうみ一せふ
ぞくめひやいるめふあつさ事じや。分うちがさの
ちうけふあつさうよいトびーえおさ光紙戸　吸「おろふ上
ま世ちうトうぞいおうまんとの世て出す　右「ヤアこうりや
女房じやういようその女中。いつのろふ戻つてあるぞ

い吸「今の四わがと入ちうんと拍ちうぞうとそいう
ちそおまへのんの紙ようまも。うんなゆそおまさ。私
ぐアんえーたのかうふんうんこぞつぞ者のうも
ふうんうんてトさうれいナア　右「アくまじくくと
今ぞのは拍一うんちうさ女房とよび戻す右三人や
ちへが主とそもまさ吹ぐあちう　吸「なうりぐ
そりやよう合点しています。そんちらいつそ乳のあが
幸ひーや。夜のうち人乳母きえが来ぞんす。行と右

えんさんのかわ後じゃ。おかねそやうませ。ト右ちらい
ちらい。「いてこそ」コリヤ。ちりこい。こぞうまの手を代
文。縁のものじゃつそんせ。ト右ちらい文ん〳〵
くん入わとんり方。分くま
えんの右ちらい。アリヤ。ゆ〳〵。旅まち方七ゑ門ぐろぞあち
人。こちらゑ名もさんじゃ。トくへこちらゑ七ゑ門ゑ
「いゆく門は林ゑ。さあのゆきのあの通り。「ゑ
ぎんよいう七〳〵ぐの。△「ゆじゃきろくをしく
ゑの貝分。△コリヤ。ぐじゃ。七「ちらとちふ

ゆ。「林。さんふじゃゑいまひ
「なんのゆじゃ。△「そんゑらけ〳〵。林ゑ。「ゑ
なわしいゑゑんせ。トくへあとをはぐたざんめの。合方
ゆ。七「りゃんく。トわこのまゆすると下女。下女へちら
く。七「りゃんく。ト女「ちらく。七「ちんく。ト女へ
ぎらわ〳〵。ゆ。ゑ。ゑ。ちらしうぐひ出てぐらして。七「そ。ゑ
こんぎらわひぎゆかうまゆ〳〵とゆ〳〵。
炉じゃ。ト出すとしてそろとれて女七〳〵ちゆとゆ。陸ゑ。体
へつまとこのやしんの花。あく〳〵ゑちゆとゆ出て
ひしと合。右「ひしてしてゆ。ちらゆ。ゆ。ゑ。花ちらゆ。ゑ

こゝへナリト云アルイハ云ヒ　云ヒ　かゝるけるいトあんどうのたとと
ひやうぶを出して　云ヒ　サテ〳〵今ねこと思つゝうと藤よりさい
と云ヒまこと夜まるらなんなんあるこがあるこいナリトふとなる
ナカラ　ぶぶひ出ひやうぶの　云ヒ　わるくこの人の時でこ人
うしろゝ西面ゝの人ひ立ちまる　人どうり
ちりろう出ゝしてわるこ平ふゝりナカラめがうせもう
てひいあるとさゝあつてさいと云ヒ　私い一向あゝ〳〵
うんざるんナリ　云ヒ　よりやきゝのうらでふこうが叫ん
して居るうんとんナカラつもちろまいたち方夜ゝのようぴて

方ゝとうあるのあるそわろであろ　云ヒ　ゆんゝおいゝ
がいるぞんす　云ヒ　うんのおいゝがい事がいろめで
けるり川仕で七度ゆがいてゝ通りじや言のあまこび
んぶうゝちがゝそうこと分待せうとて成さるの四月今
と我まゝふはひ果ゝと　云ヒ　そもゝ人ゝうこしゆふ
ナカラつゝんぶぞ怪ふ出ゝて下さんせト　おびナカラ屋
ゝのうろ　云ヒ　方がぞ出こふうら尾ゝ来て首とこ
ろとおゝゝ本のそうんゝやうゝぬ若のところ古

七郎丸
十太郎
右ろく

うーく

えう男れぞ。ひ書竹のもお人くこりやこそ十ちうづ
ゆ系の徒。ちえ人と命れ親とちうんごうよりるう
と〳〵ごそうこうたようう ゆ系うさせちくこうさうナ ナ〳〵
ゆれあんる奴へ山ねのうんせ わそとうつとこ言す
ぐうこ ト ひどえ ナちう屋れ ナ〳〵そうやうきと ナ〳〵ハテ
とひきあけ
初きことうあ紙ナちうと ナ〳〵うぬ ト引ぬくあ人ナ
てびうちうーそ女ちとナるとー ちうが新とえ
とぶうナちうひ出えうちうしう 身ナちう者うえくこうの
ル。初りふとうき待ふうちうを。ちう式のうもうれ

果ちくなうのもおのきしひ思ふ今ちうあうそは恨
ぐりひうさよ。言れちう思んでうあうらを一女ちナと
きうふ対。ちうさもあ〳〵恨ちの丹ちひきを ト ナちうか
ナちうきえ 右 一 ナちうくまづ殺く ナ 一 ひと ト ナまきう
ちうそ出そ
うちう。ごちうくうそ七ちかトかおうさ ト かまぐ少 一 アく人ごちく
九ちうごりうそ。出ナナちう時ちとうせ初
ちうく 一 人ごちうーおやく ト ごくうそちうあうごうこちう
おうごんうちうへうちうぎうう
一ナせ切 やえん 一 人ごちうーおやく ト うけてちう所人大ぢ
ちうく ちうくうちうちうとお
出く ちう ト 一 ちりやく ト へうぐれうあうくけりと ナ
ちうひまちうーちうくあうく

こゝろ〳〵と指ゞ〳〵人也と入ぐこうそ乞乃ら　玉一　んそこゝろ
奴婢平くうさきくうさ。おさ乞ゝうろ人ゞ〳〵
日乃和の分れと　かゝき一　十ゝゝとゝゝゝゝ　大勢人をあ
やゝくゝゝゝゝいナア　ま一ヤアかもむさんゝ　ゝとくゝかくゝ
右之文言〳〵　おさき一ヤアあ之人どの。こゝこゝも切きさし
くゝり如く
さういのう　右一　要人さまこうゝ人け物をとゞけてわさう
ま也。大切ゝ。そのあ物と。きゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
門そ　大せゝ一　アリヤくゝくゝ　六一　じやといつてこゝゝこのこゝ
人ゞを見ナそゝいゝ　右一　平くんゞくゝとゝくかまゝゝどとゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

とし[illegible]ちうと切る。とし〳〵ワア〳〵〳〵トわら〳〵こら〳〵へうげまろ
ひろ〳〵あろ〳〵よれとろろ。せきき夜人ごろ〳〵の十たろト
こそ十たろポンと切さげる。まなかあり
ぬそかるとポンとかろ〳〵ぢしの十〳〵あつまき弟の血かま
るびひとき引とろく〳〵
とき〳〵ちうひじやよナアト
ひろ〳〵へろ〳〵く
幕

絵本続ゆく紅葉たもとろう

深川本儀
本幸